

「産銅国チリとの出会い」

一般社団法人 日本銅センター
 一般社団法人 日本伸銅協会
 専務理事

亀井 隆徳



5月29日の定時総会で専務理事に選任されました、亀井隆徳です。
 大学で、銅鉱山の研究を専攻して以来、銅とのかかわりは40年近くになります。

私はこれまで2回、海外生活を経験しました。いずれも家族帯同でチリとスイスに各々3年間です。特にチリは初めての海外駐在でしたし、3番目の子どもが生まれたこともあり、印象深く思い出します。

かつてチリは、戒厳令や市民弾圧等で治安の悪い時期もありましたが、私が駐在していた頃は比較的安定していました。チリに駐在した時期をよく尋ねられますが、これだけは即答出来ません。チリで生まれた子供が今年成人式なので、丁度20年前というわけです。

仕事は大使館の経済担当参事官。日本でも資源エネルギー庁で資源開発の担当でしたので、CODELCOやENAMIといろいろなお付き合いをしました。最終的には、日本企業による新規銅鉱山の開発に繋げようという意図です。今や世界に冠たる銅の生産国チリですが、当時の銅製錬所の多くは、黒煙が漂い、構内は刺激臭(硫酸)であふれ、排水は黒く濁っていました。このため、国際協力事業団(当時)の制度を活用し、日本の進んだ公害防止技術を提供し環境改善を進めるため、日本人技術者の方々にチリに長期間派遣しました。

専務理事
 専務理事

また、大使館は貿易の促進も支援しています。既に活発だったサケ、フルーツ等の輸出に加え、美味で低価格のチリワインを何とか日本市場に届けたいと、商社の方と幾つものワイナリーを廻ったこともあります。

私生活面では、近くのスポーツクラブの家族会員になり、親はゴルフ、子供はプールに毎週の様に通いました。冬はアンデス山脈のスキー場に日帰りです。また、海岸線が南北に長いチリは海産物が豊富で、自家製の干物を作ったりしていました。牛肉はそれほど高級品ではなく、バーベキューでは毎回食べきれない程です。

公私両面で、日本に住んでは得られない貴重な経験をさせて頂いたと感謝しています。
 そして、その最大の成果は何かというと、「家族で住んで初めて分かるその国の実情と人々の気持ち」ということを実体験で理解できたことです。

真の国際化とは、外国(人)の気持ちを理解出来るところがその始まりだと考えています。



チリの鉱山(CODELCO ANDINA)

銅

目次

2	カパーロマン 「産銅国チリとの出会い」 亀井 隆徳
3	銅の歴史物語 千貫神輿を神々しく―伝統の銅鑄 東京・台東 鳥越神社
4	ユザー訪問 スーパーコンピュータ「京」の心臓部を守る 銅の冷却装置
6	カパーワールド Cu ⁺ のブランド戦略で 殺菌特性に優れた銅製品を普及
8	リレー随想 茶の湯と銅器 古城 紀雄
10	ルポルタージュ 金色の輝きに魅せられた 青銅器の国出雲へ
12	随筆再掲載 新年を迎えて 武者小路 実篤
14	IWCC NEWS 銅センターニュース トピックス